

男性女性の Quality of Life(QOL)と年齢との関係について

丸内ひろ美¹⁾、藤倉由紀¹⁾、上野 剛¹⁾、松林公蔵¹⁾、瀬口春道²⁾

1) 高知医大フィールド医学研究会、2) 高知医大第二解剖

インドネシア・イリアンジャヤ州・ワメナ周辺地域に居住する住民を対象に、男性女性のQOLの年齢による変化について調べた。QOLの評価方法としては、VAS(Visual Analogue Scale)を用いた。その結果、主観的健康度(VAS-health)については、男性女性ともに年齢との相関関係は弱く、加齢による変化は少ないといえる。主観的幸福度(VAS-happy)については、女性で弱い相関関係が見られ、男性については見られなかった。加齢による変化は少ないといえる。主観的経済度(VAS-economy)については、男性では年齢とともに上昇する傾向が見られた。その原因の1つとして年をおうごとに男性では財産が蓄積することが考えられた。一方、女性については、20代をピークに年齢とともに下がっていく傾向が見られた。その原因に一夫多妻制の文化の影響があるのではないかと考えられた。

目的

QOL(生活の質)は、その人の幸福感・健康状態・経済状態などが反映される。しかし、これら幸福感・健康状態・経済状態と加齢との関連は明らかでない。今回対象としたワメナ周辺地域に居住する住民は、現在でも一夫多妻制などの特殊な文化を残しており、男性と女性の生活形態は著しく異なっている。このことがQOLに深くかかわっているのではないかと考え、男女別にそれぞれのQOLと年齢との相関関係について調べた。

対象と方法

対象は、イリアンジャヤのワメナ周辺地域に居住する男女215人(男;女=108;107)である。ただし、受診者のうち10歳未満(1人)はQOLに対する調査を行っていないため解析を行うにあたって対象者から外した。対象者の平均年齢は男性 37.3 ± 15.5 歳、女性 37.2 ± 13.7 歳である。

調査を行った場所は私たちの滞在するワメナ近郊のソロバ村の宿泊所である。被検者はこの宿泊所に来て検診を受けた。

QOLの評価としては、Visual Analogue Scale(以下VASと略す)を用いた。(図1参照)これは、100mmの線分の左端を最低の状態(sakit, biasanya: 0)、右端を最高の状態(sehat, biasanya: 100)と定義し、被検者の主観で線分上に印を付けてもらい、左端からの距離(mm)を

計測してVASスコアとし、被検者の幸福度や生活の満足度などを数値化したものである。ただし、この地域では特に高齢者に自分の状態を線分で表すテストであることを理解してもらうことは難しいので、被検者本人が記入する代わりに、ソロバ村の若者1人に被検者の状態を聞いてもらい、彼に印をつけてもらった。今回調査したVASの項目としては、①主観的健康度(VAS-health)、②主観的幸福度(VAS-happy)、③主観的経済度(VAS-economy)の3項目である。それぞれの項目について年齢と相関関係があるかどうかピアソンの相関係数を用いて検定を用い、有意水準5%で解析を行った。

結果

①主観的健康度(VAS-health)について

図2に男女別の年齢と主観的健康度の関係を示した。男性女性それぞれにおいて年齢と主観的健康度に弱い相関が見られた。



図1 Visual Analogue Scale

②主観的幸福度(VAS-happy)について

図3に男女別の年齢と主観的幸福度の関係を示した。男性では年齢と主観的幸福度に相関はみられなかった。女性では年齢と主観的幸福度に弱い相関が見られた。

③主観的経済度(VAS-economy)について

図4に男女別の年齢と主観的経済度の関係を示した。男性女性それぞれにおいて年齢と主観的経済度に弱い相関が見られた。図4よりVAS値が男性は加齢とともに上がる傾向があるのに対し、その一方女性は加齢とともに下がる傾向がある。そして、年代によって男性女性の間でVAS値に差が生じるのではないかとということが予想された。そこで、被検者を10代(10～19歳)、20代(20～29歳)、30代(30～39歳)、40代(40～49歳)、50代

(50～59歳)、60代(60～67歳)の6群に分けた。最高年齢は67歳である。年代別のVAS値の推移は図5に示す。30代を境に男性と女性の間でVAS値の高低がかわる。男性と女性の間で年代別にVAS値の比較を行った結果を図6に示す。その結果、20代、40代、50代、60代について男女の間に有意差が見られた。10代、30代については男女の間に有意差が見られなかった。

考察

①主観的健康度(VAS-health)について

主観的健康度については、一般に加齢と共に低下すると考えられるがワメナ周辺地域に居住する人々では男性、女性ともに年齢と主観的健康度に弱い相関しか見られなかった。この質問に対して

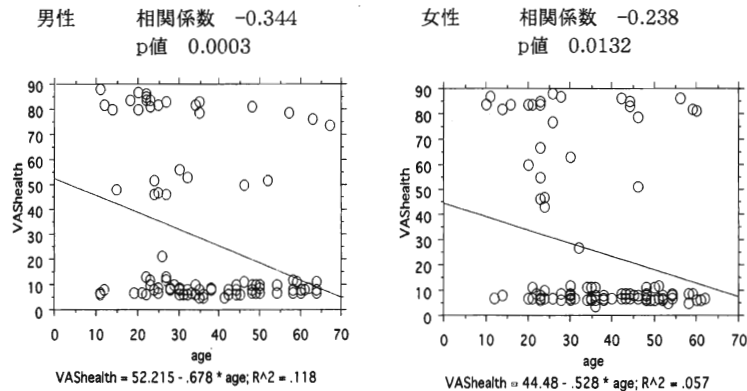


図2 年齢と主観的健康度の関係

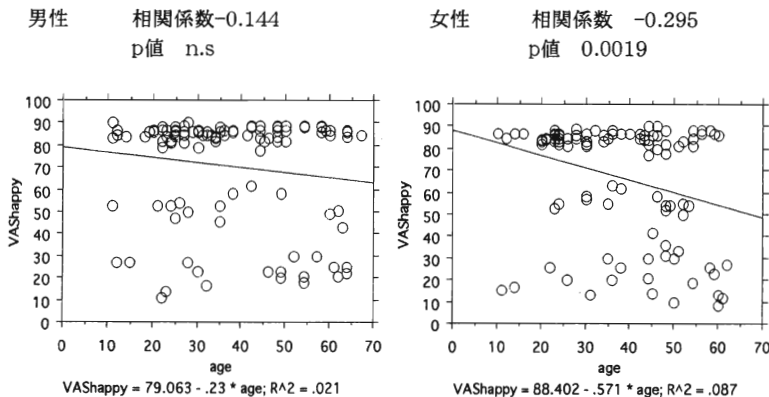


図3 年齢と主観的幸福度の関係

彼らは、「どこどこが痛いから自分は健康でない」という答え方をしていた。事実、足にかすり傷を負った何人かの男性のVAS値は低いなど、彼らの健康度はどこか痛いところがあるかどうかによって左右される傾向があった。つまり、このとき測定されたVAS値は彼らの全体的な健康状態ではなく、その時点の状態によると考えられる。そのため、年齢と健康度の二つの指標の間に弱い相関関係は

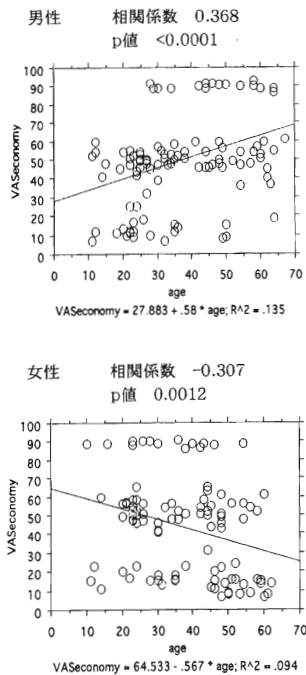


図4 年齢と主観的経済度の関係

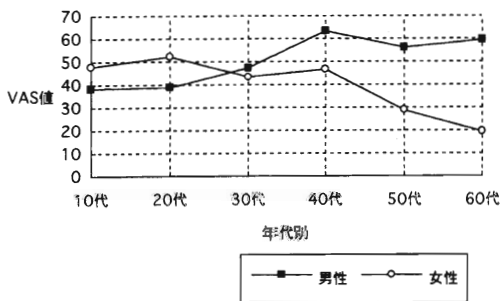


図5 主観的経済度の年代別推移

は見られなかったと考えられる。

②主観的幸福度(VAS-happy)について

主観的幸福度については、男性では年齢との相関はみられず、女性では弱い相関がみられた。まず、男性について考える。主観的幸福度に影響を与える因子は多数あると考えられるが、その中の1つに孤独感というものがある。日本のように1つの家族が独立して核家族化が進んだ社会では、高齢になると1人暮らしになってしまう場合が多い。そして、孤独を感じる機会が多く、主観的幸福度が低下する一因と考えられる。その一方、ワメナ周辺地域に居住する人々は集落ごとに団体生活を行っている。1つの集落は1軒の男性だけが住む家、数軒の女性と子供が住む家からなっている。そのため、この社会において高齢者が1人で暮らすことはなく、孤独による主観的幸福度の減少を少なくしている。また、彼らは高齢になっても集落内において何らかの役割があり死ぬまでそれを続ける。つまり、死ぬまで社会の一員である。このことも、孤独を感じさせにくい要因であると考えられる。

そして、女性についても男性と同様のことが考えられる。しかし、女性は子供とともに生活しており、子供が成長し、親離れすることによって孤独を感じる機会が男性よりも多いと考えられる。そのため、軽度ではあるが加齢とともに主観的幸福度が下がるのではないかと考えられる。

③主観的経済度(VAS-economy)について

主観的経済度については、男性では加齢とともに主観的経済度は上昇する。一方、女性では加齢とともに主観的経済度は下降する。このような男女差が見られるのはワメナ周辺地域に居住する人々の文化・生活形態が原因となっているのでは

	10代	20代	30代	40代	50代	60代
男性	38.2±20	39±21.7	47.4±21.3	63.3±24	56.4±28	59.6±22.8
女性	47.8±36.3	52.1±19.9	43.7±24.7	46.6±24.8	28.8±23.8	19.4±23.4
p値	n.s	0.0167	n.s	0.0279	0.0062	0.043

* n.s: 有意さが無いことをしめす

図6 年代別主観的経済度(平均値±標準偏差)と男女差

ないかと考えられる。男性は民族の道具や装飾品を作り、町に売りに行ったりして現金収入がある。そして、彼らは年をおうごとに自分の財産である豚も蓄積していく。こういった財産の蓄積が加齢とともに主観的経済度を上げている一因ではないかと考えられる。また、彼らは一夫多妻制で、複数（2人程度）の妻を持つ。そして、女性は若いときから芋の栽培、収穫、調理、豚の世話をを行う。女性は結婚をすまずと、育児もする。彼女たちは男性とは違い財産を蓄えることはない。30代を境に男性と女性の間で主観的経済度の高低が入れかわることから考えて、女性が子供の独立などにもなう喪失感が強くあらたに財産が蓄積されることのないこの地域の「一夫多妻制」の文化が主観的経済度に影響しているのではないかと考えられる。

結果

図1に、全集団における、SBP, DBP, PRと年

齢との相関を示した。SB, PRはまったく年齢と相関せず、DBPは年齢と弱い負の相関を示した。図2に男性集団の、図3に女性集団におけるSBP, DBP, PRと年齢との相関を示したが、男性のDBPのみに年齢と弱い負の相関を認めた。全集団における各年齢群の平均およびp値を表4-Aに示した。DBPにおいてのみ有意差が認められた。男性における各群の平均およびp値を表4-Bに示した。DBPにおいてのみ有意差が認められた。女性における各群の平均およびp値を表4-Cに示した。SBP・DBP・PRのいずれにおいても有意差は認められなかった。血圧と脈拍の男女比較を表5に示した。PRにおいてのみ有意に女性が男性より高値を示した。WHOの基準をみたす高血圧者は皆無で、3名のみが境界型高血圧に分類されたにすぎなかった。

Summary

Quality of Life in Dani People

Hiromi Maruuchi, Yuki Fujikura, Tsuyoshi Ueno, Kozo Matsubayashi

Kochi Medical School

We investigated the change of 'Quality of life' by aging for the men and women living around Wamena, Irianjaya, Indonesia. We used the "Visual Analog Scale (VAS)" for the quantitative assessment of quality of life. As a result, "VAS-health" had a little relationship with age in both of men and women. "VAS-happy" had no relationship in men, but had a little one in women. "VAS-economy" had a little relationship with age in the both. "VAS-economy" in men became larger with aging. As a reason, the men keep their own things with advancing age. In contrast, women became poorer after 20 years with aging probably due to sense of loss of things. It is supposed to be related to the culture of "Poligamy".